

	学習指導要領	都立成瀬高校スタンダード
A 思 考 す る 型 ・ 振 り 返 り を 通 し て 学 び を 深 め る	地球儀や様々な地図の活用及び地域調査などの活動を通して、地図の有効性に気付かせるとともに、地理的技能を身に付けさせる。 ア 地理情報と地図 地球儀の活用、様々な時代や種類の世界地図の読図、地理情報の地図化などの活動を通して、各時代の人々の世界観をとらえさせるとともに地図の有用性に気付かせ、現代世界の地理的事象をとらえる地理的技能を身に付けさせる。 イ 地図の活用と地域調査 直接的に調査できる地域の地図を活用して多面的・多角的に調査し、生活圏の地域的特色をとらえる地理的技能を身に付けさせる。	〔位置、方位、時差〕 - 地球上の任意の2地点の緯度・経度を基にして、2点間の位置関係（南北及び東西）を考えるとともに、時差を求めることができる。 〔地球儀、世界地図〕 - 古代バビロニア・古代ギリシア・中世ヨーロッパの各時代の世界図を作成された順に並べることができる。 - メルカトル図法で作成された世界地図において、任意の2地点を結ぶ直線が2点間の最短距離を示さないこと、面積が高緯度になるほど拡大されていることを理解する。 - 統計地図には、様々な地図表現があることを理解するとともに、目的に応じて分布図や階級区分図などの統計地図を作成することができる。 〔地形図の読み方〕 - 国土地理院発行の地形図において、提示された縮尺を用いて実際の距離を求めることができる。 - 地図記号を読み取り、田・畑・果樹園・桑畑などの彩色を変えることで土地利用図を作成できることを理解する。 - 地形図を同じ地域の旧版地形図と比較することで、地域の変容を調べられることを知る。 〔地域調査〕 - 地域調査の方法として直接現地で行う方法と学校の図書館などで文献や資料を利用する方法を理解する。 - 調査結果を、図表、地図などで表現する適切な方法を選択できる。

教科：地理歴史 科目：地理B

学習指導要領		都立成瀬高校スタンダード

	学習指導要領	都立成瀬高校スタンダード
B なぜ？を 考え 抜く 習慣を 身に 付け る・他 者と 協働 する 型を 習得	世界の自然環境、資源、産業、人口、都市・村落、生活文化、民族・宗教に関する諸事象の空間的な規則性、傾向性やそれらの要因などを系統地理的に考察させるとともに、現代世界の諸課題について地球的視野から理解させる。 ア 自然環境 世界の地形、気候、植生などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や人間生活などのかかわりなどについて考察させるとともに、現代世界の環境問題を大観させる。 イ 資源、産業 世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通、消費などに関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の資源・エネルギー、食料問題を大観させる。	〔自然環境と人間生活〕 ・新期造山帯が地震や火山の多い地域であることを理解し、プレートテクトニクス理論におけるプレート境界を3種類に分類できることを理解する。 ・世界や日本の主な地形について、その成因や人間生活との関わりを理解できる。 ・気温の水平的分布の特徴を、緯度や水陸分布と関連付けて理解する。 ・ケッペンの気候区分の概要や世界の植生の概要を大気の大循環の仕組みと関連付けながら理解する。 ・環境問題について、例えば、砂漠化は砂漠の中心でなく、周辺部で起きている問題であることを理解する。 〔農林水産業〕 ・世界の主な農業地域の分布とその特徴を理解するとともに、それらは、自給的農業、商業的農業、企業的農業の三つの農業地域に分類できることを理解する。 ・主要な農林水産物について、主な生産国、輸出入国、貿易量を比較し、それぞれの農産物の特徴を理解する。 〔工業〕 ・輸送費を基に原料指向型工業と市場指向型工業の立地を理解する。 ・世界の主な工業地域の分布とその特徴を理解する

学習指導要領	都立成瀬高校スタンダード
ウ 人口、都市・村落 世界の人口、都市・村落に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や動向などについて考察させるとともに、現代世界の人口、居住・都市問題を大観させる。 エ 生活文化、民族・宗教 世界の生活文化、民族・宗教に関する諸事象を取り上げ、それらの分布や民族と国家の関係などについて考察させるとともに、現代世界の民族、領土問題を大観させる。	とともに、アジアNIEs、ASEAN諸国、BRICsなど、時代によって工業生産力を大きく伸ばした国や地域が異なっていることを理解する。 〔流通・消費〕 - 世界の交通・通信、貿易、商業、観光の発達と地域差について理解する。 〔資源・エネルギー、食料問題〕 - 世界のエネルギー資源や鉱産資源の生産地には、偏在性があり、消費地にも特性があることを理解する。また、省エネルギーやリサイクル、再生可能エネルギーについて理解する。 - 世界の栄養不足や飢餓は、主に発展途上国で起きていることを理解するとともに、先進国での課題についても理解する。 〔人口、都市・村落〕 - 人口転換について理解するとともに、高い人口増加率は、出生率の高い多産少死型の人口動態を示す国や地域で見られることを理解する。また、主な国際的な人口移動について理解する。 - 発展途上国における急速な都市人口の増加は、農村から都市への急速な人口移動による要因が大きいことを理解する。 - 先進国では出生率の低下により少子高齢化が進んでいることを理解する。 - 都市の内部構造や都市化、都市圏、都市問題について理解する。 〔生活文化、宗教・民族と人間生活〕 - 世界の生活文化の地域的差異について、自然環境との関わりから理解する。 - 世界各地に伝播している宗教が世界宗教と民族宗教に分けられることを理解する。

	学習指導要領	都立成瀬高校スタンダード
(3) 現代世界の地誌	現代世界の諸地域を多面的・多角的に考察し、各地域の多様な特色や課題を理解させるとともに、現代世界を地誌的に考察する方法を身に付けさせる。 ア 現代世界の地域区分 現代世界を幾つかの地域に区分する方法や地域の疑念、地域区分の意義を理解させるとともに、その有用性に気付かせる。	・同じ国の中で異なる言語を使う民族が存在する場合、複数の言語を公用語としている国があることを理解する。 〔領土問題〕 ・領海の外側に設けられる排他的経済水域を理解する。 ・国境には自然的国境や人為的国境があることを理解する。また、日本固有の領土である北方領土問題と竹島、尖閣諸島の現状について歴史的経緯を踏まえて理解する。 〔世界の地域区分〕 ・地域区分の方法として、自然環境や文化的な特色などが指標として利用できることを理解する。 ・例えば、文化による地域区分では、ユーラシア大陸をヨーロッパとロシア、アジアに分けて考えることができ、かつアジアを東・東南・南・西・中央の5地域に区分し、各地域の関連性や共通性を理解する。 ・例えば、文化による地域区分では、アフリカを民族的、文化的な相違から北アフリカと中南アフリカに区分できる。 ・例えば、文化による地域区分では、オセアニアを、オーストラリア大陸、ミクロネシア、メラネシア、ポリネシアに区分できる。

教科：地理歴史 科目：地理B

学習指導要領		都立成瀬高校スタンダード
的 考 察		

学習指導要領	都立成瀬高校スタンダード
イ 現代世界の諸地域 現代世界の諸地域を取り上げ、歴史的背景を踏まえて多面的・多角的に地域の変容や構造を考察し、それらの地域にみられる地域的特色や地球的課題について理解させるとともに、地誌的に考察する方法を身に付けさせる。	〔世界の諸地域、東アジア〕 - 例えば、中国の人口問題には、将来の高齢社会の問題が含まれることを理解する。また中国には、一部に民族問題が起きていることを理解する。 - 例えば、近年の中国の経済発展と社会の変化を、1970年代後半の改革開放政策導入から1980年代、冷戦終結後の1990年代、2000年代の急激な成長期に分けて理解する。 - 例えば、朝鮮半島の歴史を踏まえた上で韓国と北朝鮮の現状を理解する。 〔世界の諸地域、東南アジア〕 - 例えば、東南アジアは多様な民族や宗教の構成であることを歴史的な経緯を含めて理解する。 - 例えば、東南アジアの農業形態は、原始的な焼畑農業や植民地時代からのプランテーション、「緑の革命」以降の近代的な稲作など様々なものがあることを理解する。 - 例えば、ASEANの成立の背景や、域内の工業化の進展・政治的安定にASEANが大きく寄与したことを理解する。 〔世界の諸地域、南アジア〕 - 例えば、南アジアは、多様な民族や宗教の構成となっていることを、歴史的背景を含めて理解する。 - 例えば、インドは言語や宗教が多様で、カースト制の伝統的な制度や価値観が、社会問題に発生していることを理解する。 - 例えば、独立後のインドの鉱工業の近代化について、地下資源分布と重ね関連付けて理解する。

学習指導要領	都立成瀬高校スタンダード
	〔世界の諸地域、西アジア・中央アジア・北アフリカ〕 ・例えば、西アジアや北アフリカにおいて、カナートなど地下水路を導入して乾燥気候を克服してきたことを理解する。 ・例えば、国際石油資本（メジャー）に対抗して、石油輸出国機構（OPEC）等を結成し、油田を国有化して、石油価格に大きな影響を与えるようになったことを理解する。 ・例えば、中央アジアの国々はかつてのソビエト連邦の一員であり、20世紀末頃に独立した後も、ロシアの社会的な影響が見られることを理解する。 〔世界の諸地域、中南アフリカ〕 ・アフリカの経済発展を阻む要因の一つである民族対立が、列強による植民地分割を背景にもつことを理解する。 ・例えば、植民地が独立国になっても、モノカルチャー経済から脱却できずにいる理由を理解する。また、この地域では一人あたりの国民総所得の低い国が多いことを理解する。 ・例えば、南アフリカが地下資源に恵まれていることや工業発展の歴史的経緯を理解するとともに、アパルトヘイト撤廃について理解する。 〔世界の諸地域、ヨーロッパ〕 ・例えば、ヨーロッパ諸国がEUという経済的、政治的統合に向かっていることを理解するとともに、統合への課題について理解する。 ・例えば、大半の地域がキリスト教文化を共通のアイデンティティとしているヨーロッパでも、東西南北それぞれにおいて民族・宗教などに一定の地域性が見られることを理解する。 ・例えば、ヨーロッパの工業は、その多くが産業革命以来炭田立地の工業地域として発展してきたが、近年域外原料への依存度の高まりとともに工業の中心地域が移動したり変化したりしていることを理解する。

学習指導要領	都立成瀬高校スタンダード
	〔世界の諸地域、ロシアとその周辺諸国〕 ・例えば、ロシアの国土について、面積や自然環境であることを具体的データに基づいて理解する。 ・例えば、ロシアの民族問題を理解する。 ・例えば、ソ連崩壊から現在に至るまでのロシアの経済状況の変化について理解する。 〔世界の諸地域、アングロアメリカ〕 ・例えば、アメリカの農業が、気候環境を基にして東西に地域区分できることを説明できる。 ・例えば、アメリカの工業生産額、工業製品輸出額、エネルギー消費量が世界一であることを理解する。 ・例えば、アメリカ、カナダが多くの移民を受け入れてきた多民族国家であることを、移民の出身地と関連付けて理解する。 〔世界の諸地域、ラテンアメリカ〕 ・例えば、ラテンアメリカの国別の人種、民族構成を理解する。 ・例えば、ラテンアメリカに残る大土地所有制は植民地支配の影響を受けており、地域によって大農園の呼称が異なることを理解する。 ・例えば、ブラジルの経済発展をモノカルチャー経済からの脱却と関連付けて理解するとともに、アマゾン川流域では熱帯林の破壊や土壌侵食が発生していることを理解する。

学習指導要領	都立成瀬高校スタンダード
ウ 現代世界と日本 現代世界における日本の国土の特色について、多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望させる。	〔世界の諸地域、オセアニア〕 - 例えば、現在のオーストラリア社会が多文化主義であることを理解する。 - 例えば、オーストラリアの経済が農産物や資源の輸出に依存してきたことを理解する。 〔我が国の自然環境の特色と自然災害〕 - 日本の自然環境の特色を踏まえ、過去に起きた多くの自然災害を理解する。 〔我が国の産業の発展〕 - 日本の産業構造の変化と課題について、歴史的経緯を踏まえて理解する。 〔我が国の人口問題〕 - 日本は少子高齢化の進展により、様々な課題が発生していることを理解する。 〔我が国の抱える諸課題〕 - 我が国が抱える地理的な諸課題を探究し、解決の方向性や将来の国土の在り方を理解する。